

服部孝章先生の定年退職にあたって

服部孝章先生は2015年3月に定年を迎え、立教大学社会学部を退職されました。先生は、1989年4月に社会学部社会学科に助教授として着任され、1991年4月教授に昇格、1997年4月から1999年3月まで社会学科長を務められました。また、2002年4月から2007年3月まで大学院社会学研究科前期課程主任を務められ、2006年4月からは新設されたメディア社会学科に異動、新学科の建設に尽力されました。立教大学着任から26年間の長きにわたり、教育、研究、大学運営に多大な貢献をされました。

服部先生のご専門は、メディア倫理法制、情報法、情報社会論を中心とするもので、表現の自由にかかわる諸問題、放送制度、メディアの公共性、国際コミュニケーション、ジャーナリズムのありかたなど、さまざまなアクチュアルなテーマに取り組み、マスコミ研究の第一人者として論文・研究発表を続けてこられました。その発表の場は、学術ジャーナルのみならず、メディア関連の専門誌や一般向け雑誌など多岐にわたり、研究の社会発信の面でも優れた功績を挙げておられます。また、長年、新聞のコラムニストやテレビのコメンテーターとしても活躍され、なかでも毎日新聞の「メディアを読む（放送）」は、1996年から2011年までの長寿コラムとして知られております。

教育面では、1990年卒業の初代から、通算すると27代、総勢400人を超えるゼミ生を輩出し、つねに社会学部の「名物ゼミ」の指導教授として学生の間で定評がありました。その指導は熱く、学生たちに向けられる叱咤激励は、学生や研究対象であるマスメディアへの期待の表れでもありました。ゼミでは、つねに学生の自主性を奨励・尊重され、学生の手によるさまざまなセミナーやイベントが開催されて、活気にあふれるものでした。先生の研究室は、コーヒーとともに議論を交わすことのできる居場所であったと卒業生たちは述懐しています。

先生は、大学運営の面でも活躍され、1994年度から1995年度まで教務部長を務められ、全学共通カリキュラム運営センターが発足してから、全カリが全面展開されるまでの重要な時期に、教務部長として多大な貢献をされました。また、2003年度から2004年度までの2年間は人権センター長として、2006年度から2007年度までの2年間は人権・ハラスメントセンター長として、大学内のさまざまな人権啓発のための取り組みに貢献されました。

また、学外においては、日本マス・コミュニケーション学会や情報通信学会の理事を長く務められたほか、マスコミ倫理にかかわる第三者機関としての放送倫理・番組向上機構の放送倫理検証委員会委員を務められました。

この間の多面的なご活躍に貫かれていた先生の批判的精神は、他の何ものにも代え難い貴重なものであります。今後ともご健康に留意され、ますますご活躍されることを願ってやみません。

2016年3月

社会学部長

松 本 康